

「日本写真保存センター」調査活動報告 (12)

アーカイブ構築に向けての写真データベースの実証実験

松本 徳彦

(専務理事、日本写真保存センター設立推進連盟事務局長)

時代を色濃くとらえた歴史的・文化的に貴重な写真原板の収集・保存を行っている「日本写真保存センター」は、文化庁の委嘱を受けて平成19年度から「我が国の写真フィルムの保存・活用に関する調査研究」を、23年度からは「文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究」へと活動をを進めている。

遺族の元から写真原板を収集し、撮影日時、場所、内容などのメタデータを写真原板台帳に記録、スキャニングによるコンタクトプリントの作成、劣化の有無テスト等を行い、写真原板の原資料であるデータベース (DB) を作成している。このDBをもとにWeb上で閲覧、検索ができるシステムを構築し、23年度からマスコミ、美術館、図書館、教育関係者による実証実験を行ってきた。その内容の一部を紹介する。

このシステムは凸版印刷(株)の協力を得て、構築スタッフの木下 悠 (DCSC映像企画部CIC) と奥平正幸 (関西TIC本部ITソリューション部) 両氏の報告を引用させていただいた。

SAI-CHIの導入

23年度採用した「MuseScope」の実証実験を、マスコミ、美術館、教育関係の有識者から利便性についてのアンケートを取り、問題点を検討した。24年度はより利便性の高い「SAI-CHI」で実証実験を繰り返し、少ない予算での構築、運用効率等を考慮して、これを採用することにした。一般的にDBの設計と制作は、そのDBの目指すところの完成形を想定して、時間と予算をかけて作り上げることが多い。しかし、「写真保存センター」のDBは、研究と開発の余地を残しながら、継続的かつ段階的に開発を行い、理想的なDBを目指すことにした。

これらの諸条件をクリアできるDBサービスとして、昨年秋にリリースしたアーカイブソリューション「SAI-CHI」が適していると判断し利用することにした。

SAI-CHIの機能と特徴

「SAI-CHI」はアーカイブの管理閲覧システムで、博物館・公文書館・図書館・企業などが保有する貴重かつ膨大な資料を利用者に応じて「適切なデジタル化」を行い、作成されたデジタルデータをもとに、「保存」や「検索」「閲覧」「管理」を可能とするDBの構築、またその「利活用」の方法や仕組みまでを総合的に提供することのできるシステムとなっている。

- 検索機能** 全文での検索が可能である標準の検索機能を装備するとともに、管理者が自由に構成を変更することが可能な構造となっている。これにより検索性の最適化ができ、誰もが見たい資料を捜しやすくなる。
- 閲覧機能** サーバやクラウドなどで情報を共有化することで、Webを通してどこからでも閲覧が可能であるだ

けでなく、管理者閲覧、内部閲覧、Web公開、アクセス制限など公開の範囲を自由に変更ができること。また「写真ビューワ」「書籍ビューワ」など各データの形態に応じたビューワの使用が可能となっている。

- 管理機能** メタデータ記述の標準化を目指した国立国会図書館のDC-NDL (国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述) などに基づいた汎用性の高い管理項目が用意されている。

- 登録機能** メタデータなどCSV (カンマで区切られたデータ) による一括入力が可能である。また管理者以外の閲覧者が持っているメタデータを入力することも可能となっており、情報の共有化を図るのに便利である。

- 「SAI-CHI」は構築したいDBの予見に沿ったかたちで機能を選択し、組み合わせ、またカスタマイズすることによって最適なDBを作ることが可能である。またDBの規模、公開範囲によってWebサーバやクラウド、イントラネットなど様々な運用方法に対応することも特徴である。元となるDBがあれば、制作の期間の短縮、低コストで実現できるセミオーダー的DBである。

- まとめ** 現在、日本写真保存センターDBの「SAI-CHI」(2012年度版) は検索、閲覧機能の開発までにとどまっており、次年度以降、管理、登録機能の開発を進めて行く予定である。

また博物館、史料館など他館との連携を強化し、情報や資料の数を増やし、メタデータを標準化していくことで日本における「写真原板DB」の中心的役割を目指している。

さらに運用面でも独自サーバの開発や写真のダウンロード、その課金システムなどの利活用面の検討が今後の課題となっている。

●**検索機能について** 「SAI-CHI」による実証実験DBの検索機能には、「フリーワード検索」と「詳細検索」の2通

りがあり、目的に応じて選択できる。

○**フリーワード検索** DBにアクセスすると、フリーワー

ド検索画面が表示され、DB上にある文字情報の全てを対象に、任意の文字列での検索を行うことができる。(図2)
 ○**詳細検索** 「撮影者名」「撮影年代」「撮影地」「タイトル」「原板種別」「コマ番号」「被写体キーワード」の7つの条件ごとに、それぞれの方法で検索が可能。(図1)

表記のゆらぎの回避や一覧性、直感性の確保のため、下記の表のように、一覧からの選択や、プルダウン選択、範囲検索、など、各検索項目の性質とユーザビリティに沿った検索方法を採用している。複数条件を入力した場合は、それら全てを含む文字が検索対象となっている。

図1

撮影者名	一覧から選択
撮影年代	西暦をプルダウン選択、年代の範囲検索 (例) ○○年～○○年
撮影地	国名をプルダウン選択 (現状は「日本」か「国外」の二択) 国名を選択後、地域は一覧からの選択
タイトル	フリーワード入力
原板種別	プルダウン選択 (現在は「カラー」か「白黒」の二択)
コマ番号	フリーワード入力
被写体キーワード 最大3点同時選択	リストからの選択 (被写体キーワードリスト参照) 複数項目選択時は「それら全てを含む」か「いずれかを含む」の選択が可能

図2

公益社団法人日本写真家協会 日本写真保存センター
文化庁委嘱事業「平成24年度文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」
実証実験用データベース

フリーワード検索 詳細検索 このDBについて、日本写真保存センターとは 撮影者紹介 ヘルプ・FAQ

◆詳細検索

撮影者名 撮影者一覧 タイトル
 撮影年代 ~ 原板種別
 撮影地 国 地域 コマ番号

◆キーワードで検込 全てを含む

キーワード利用する 選択されたキーワード(3つまで):

風景	平原・砂漠 森・林 海 山 川 空 農村 市場 漁村 鉄道 街角・都市 道 室内
建造物	住居・民家 宗教建築 工場・産業施設 教育関係 店舗 城・宮殿 遺跡 墓園
産業	工業製品 農産物 水産物 食品
交通	自動車・自転車 船 鉄道 航空機・ヘリコプター
工芸・芸術	文化財・絵画・彫刻 工芸品 楽器 日用品・民具 宗教器具
動植物・自然	植物 花 樹木 動物 鳥類 魚類 昆虫 天候 その他
人物	人(単数) 人(複数) 男性 女性 子供 老人 群衆 家族 集合写真 文芸家・実相家・学者 俳優・音楽家・舞台関係者 有名人 政治家 軍人・警官・消防隊員 スポーツ選手 農民 漁民 商人 職人 事務員・教師・医療関係 宗教関係者 話す 笑う・喜ぶ 作る
社会・文化・風俗	遊ぶ 休む 飲食 戦う・怒る 集まる 折る 学ぶ
事件・災害・戦争	政治 労働 スポーツ 遊び 舞台 ファッション 祭り 冠婚葬祭 事故 事件 病気・障害 天災 デモ・集会 公害 戦争

◆表示順 撮影年: 昇順 降順 撮影者: 昇順 降順

検索 クリア

図3

●**検索結果** 検索該当写真の「一覧表示」、写真の「拡大表示」、「詳細表示」によって閲覧できる。

○**検索結果の表示** 検索結果は視認性を高めるため、画像のサムネイルを一つのページに30点まで表示し、各写真ごとに「サムネイル画像」「写真家名」「撮影年月日」「撮影場所」「タイトル・キャプション」を読み出すことができる。(図3)

サムネイルの右下にある「詳細」ボタンをクリックすると、詳細画面へ移動する。

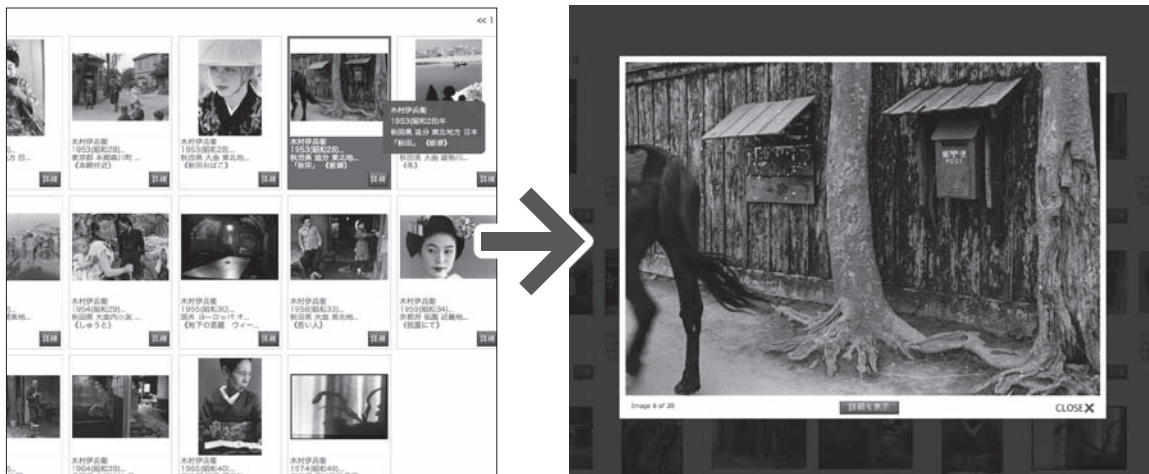
テキスト情報は、スペースに入りきれない部分は省略されているが、カーソルをあわせると、吹き出し形式で全文が表示される。



○画像の拡大表示 各サムネイル画像をクリックすると、画像が拡大され、より細かい部分の確認ができる。画

像の下にある「詳細を表示」ボタンをクリックすると、詳細画面に移動する。(図4)

図4



○詳細画面 検索結果のサムネイル「詳細」ボタンか、画像拡大表示画面の「詳細を表示」ボタンをクリックすると、詳細画面となる。詳細画面では、テキストデータとして、「撮影者」「撮影年月日」「撮影場所」「被写体キーワー

ド」「タイトル・キャプション」「掲載文献情報、解説」「原板種別」「コマ番号」「所蔵」といった写真の詳細情報が表示される。検索に該当した言葉の部分が青く表示される。(図5)(図6)

図5

公益社団法人日本写真家協会 日本写真保存センター
文化庁委嘱事業「平成24年度文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」
実証実験用データベース

■印刷物掲載画像

■コマ画像

■コンタクト画像

撮影者	氏名： 名取洋之助 なとりようすけ NATORI, Yonosuke
	生没年： 1910年(明治43年)～1962年(昭和37年)
撮影年月日	1935(昭和10)年頃
撮影場所	東京都 新橋か銀座付近 関東地方 日本
被写体キーワード	風景・街角・都市 人物・群集 事件・災害・戦争・事故 事件・災害・戦争・事件 事件・災害・戦争・戦争
タイトル・キャプション	『報道写真の青春時代 名取洋之助と仲間たち』より 『自転車の店員と自動車の接触事故の野次馬』
掲載文献情報	p.54, 『報道写真の青春時代 名取洋之助と仲間たち』より 『自転車の店員と自動車の接触事故の野次馬』, [写真集]
解説	新橋・銀座付近の街角で発生した自動車と自転車の接触事故に、野次馬が集まる。左上の電柱前に事故を起こしたとみられる自転車が転倒している。
原板種別	撮影原板 白黒ネガ
コマ番号	P0039-00002-0001
所蔵	JPS・日本写真保存センター

閉じる

図6 画像は「印刷物掲載画像」「コマ画像」「コンタクト画像」の最大3種類が表示される。各画像はそれぞれ拡大表示することが可能である。



SAI-CHIによるWeb公開

23年度の実証実験によって得られたアンケート結果などから抽出された写真データベースのあるべき姿をもとに再設計をした。重点的に改善されたのは、ユーザビリティと視認性である。

一つの写真について、それぞれ「写真画像」と、それに付帯する様々な「テキスト情報」が登録されている。DBの設計に際しては、「写真画像」を主たるコンテンツとするDBとして、視認性やユーザビリティに配慮して設計した。

SAI-CHIは

一般的なWebブラウザから閲覧が可能である。Internet Explorer、FireFox、Safari、Google Chromeのそれぞれ最新版について動作確認をしている。スマートフォンでもAndroid端末、iOS端末についても動作確認をしている。

写真画像については、いずれも著作権を含む様々な権利が関与している部分もあるので、アクセス制限や公開範囲の限定などについて慎重な検討を行っている。

データベースの公開に求められるもの

DB作成と公開にあたって、期待された要件として重要度の高いものを以下に記す。

- a. 柔軟にカスタマイズできること。メタデータの順序など、表示の自由度が高く、画像に適切な詳細情報を記載・管理・表示できること。実証実験の結果をうけ、拡張、修正が可能であること。
- b. 写真原板の資料特性に合った画像表示ができること。一つの写真に対して、「印刷物掲載画像」「コンタクト画像」「コマ画像」の3種類の画像を表示できること。また、それぞれの画像を拡大表示できること。
- c. 全文検索ができること。

撮影年代、撮影場所、写真家名、被写体キーワードなど定まったメタデータ項目だけでなく、各メタデータを横断的に検索したり、解説部分のテキストなどの詳細検索もできること。

- d. 写真資料や原板を収蔵している公文書館や資料館、図書館、博物館、美術館などとの情報の共有が可能であること。
- e. 写真画像の検索ができ、視認性が高いこと。検索結果で画像が一覧表示や拡大閲覧が可能なこと。
- f. 蓄積したメタデータが容易に移行できること。「写真保存センター」がFileMakerで管理している写真原板台帳情報を移行できること。
- g. 予備知識がなくても検索が容易なこと。「利用者」が写真家名やキーワードを思い浮かなくても、ある程度の情報が検索でき、多くの人が使える利便性の高いものであること。

以上の要件を満たしていることを前提にして実証実験を行った。

実証実験はマスコミ、美術館、図書館、教育関係者と編集者、写真家の約120名の方々からお願いし75名から回答をいただいた。結果はサイトの操作性、画面の構成、画像情報などで81%の方がおおむね満足と寄せられた。ただ、表示される画像が1000件弱しかなく、ものたりなさも指摘された。今後、登録される画像が数万件におよぶことも想定してのシステムの構築が必要で、構築・運用に当たっては相当な経費を覚悟しなくてはならない。

一方、各地の資料館や公文書館、図書館などには膨大な写真資料が収集されているが、その多くは整理されないまま収蔵庫に眠っていて、フィルムの劣化が問題となっている。そうした地域を捉えた貴重な写真の発掘のためにも、各地の資料館との情報の交流、共有化を図ることも検討する必要がある。

【お願い】 写真保存センターの活動状況は、JPSのホームページ(URL <http://www.jps.gr.jp>)でご覧になれます。また、データベースSAI-CHIをご覧になる方は、archive@jps.gr.jpに空メールをお送りください、実証実験用のアドレスとパスワードを送りますので、ご利用ください。